

## ひまわり会 総会を開催

# 新たな助成金を得て事業の安定へ

オープンして3年目を迎えようとしている「明舞ひまわり」を運営している「NPOひまわり会」の定時総会が、8月27日（土）「明舞ひまわり」で開かれました。

## ようやく地域に定着、期待される今後の活動

事業報告では、おもに次のようなことが報告されました。

- ①月・火・木・金の週4日の営業も定着し、登録ボランティア36名のうち約半数は地元ボランティアが占め、毎日9～10名の実働によって運営されている。
- ②食堂の定食、配食は合わせて1日60～70食体制を維持しているものの、配食とくに夕食の配達へのニーズが高まっている。
- ③旬の素材を使った薄味、栄養バランスのよい定食は、独居の高齢者、生活習慣病予後の人たちの生きる糧となって感謝されている。
- ④2004年度は、チャリティーバザー、ふれあいコンサート、新春餅つき大会など商店会や地域の地縁団体（自治会など）との協働によりイベントを成功させ、「ひまわり」の活動への認識を深めた。
- ⑤クチコミで「ひまわり」の活動が知られていく中で、他地域の配食ボランティアグループや男性料理教室のグループなどの見学者が続いており、ようやく「食のひろば」として機能しはじめている。

会計報告では、

- ①2004年度の県の助成金100万円は、すべて店舗の初期改装費の償還に当てることになり、家賃・共益費などの負担がかぶさり経営状況はいぜん苦しい。
- ②定食550円、紅茶・コーヒー150円、配食弁当600円という価格を維持しながら、有機野菜の販売も含めて、安心できる素材を提供、全国の支援者から送られてくる特産品が食事に彩りを添えている。
- ③2004年度の営業損益は10万円余の赤字となったが、ひまわり会への入会金や寄付金などが21万円余あり、期末損益はかろうじて黒字になった。
- ④ボランティアには開業当初から交通費実費は支給しているほか、2004年3月から一般ボランティアは一日500円、2005年1月から700円の報酬を支給しているが、さらに増額することが懸案になっている。
- ⑤2005年度は下期に、木口ひょうご地域振興財団に申請している助成金100万円が助成される見通しにあり、今後は各種の助成金を求めていく方向で動く。

また、発足当初につくった会則も現状に合わせて改正し、正会員は年額一口5000円、賛助会員は同じく3000円に改めました。役員人事では、新たに理事2名加えて8名で構成することも承認されました。

明舞ひまわりの活動を今後さらに発展させるためにも、ボランティアによる内部体制の強化と地域の諸団体との協働を強めていくことの必要性を再確認しました。

## 「明舞ひまわり」のホームページ

ひまわりのホームページ（HP）ができました。

HPは <http://npohimawari.com>

本日の献立（ブログ）は

<http://blog.goo.ne.jp/npohimawari/>

一度アクセスして確かめてください。

## 親子でクッキング、まちづくり広場盛況

「明舞ひまわり」の異世代交流イベント第一弾として9月18日の日曜日、「おばあちゃんとクッキング」を明舞センター2階のまちづくり広場で開きました。

団地の小学生やお母さん、おばあちゃんら約30人が参加。栄養士の大石鈴子さんをサポーターに地域の高齢者が講師になって、米粉を使ったキャベツ焼きと生春巻、だんご入りフルーツポンチを調理しました。会場には3つのホットプレートや携帯コンロなどが運びこまれ、ひまわりのボランティアスタッフも休日返上でサポートしました。



## 2つの助成金いずれも確定

家賃等の運営費助成とふれあい活動事業助成

3年目に入った明舞ひまわりの事業活動を継続、定着していくために申請していた2つの助成金が交付されることになりました。

一つは、障害者などの福祉活動を支援している「木口ひょうご地域振興財団」の助成金。明舞ひまわり発足にあたって兵庫県から2年間出していた助成金がなくなったため、とりあえず今年度からの家賃や共益費等の支援を受けるために申請していたが、9月下旬に100万円の助成金交付が確定しました。

もう一つは、神戸市垂水区役所の「魅力アップ事業活動助成」です。明舞団地での「食をとおした異世代交流によるふれあい活動」を展開していくもので、30万円の助成が決まりました。明舞団地でのNPO活動によって育まれたネットワークを生かし、「異世代との交流」をメインテーマに高齢者による若い世代への食文化の伝承、親子クッキングなど、食育も考えたプログラムを計画しています。9月18日の日曜日には、さっそく「おばあちゃんとクッキング」を開催しました。

こうした助成金の決定は、明舞ひまわりの運営やひまわり会の活動を財政的に支えていくとともに、ひまわり会の活動が社会的に評価されたことを示すこととなります。ひまわり会の活動は、ボランティア的な性格をこれからも強めていきますが、事業の継続には事業面における経営努力と事業を支えていただくたくさんの人たちの支援とともに、こうした公的な助成金が不可欠といえます。

ボランティアの言葉……

### 料理教室の縁、ひまわりのボランティアに

昨年9月妻が病死した。落ち込んでしまい、放心状態の日が続いた。食事は近くに住む娘が作って持ってきてくれたが、いつまでも娘に頼ってばかりいられないと気を取り直し、自分で料理をすることにした。

やる以上は徹底してと思い、元旦からは本を買い、テレビを見、料理教室にも通い始めた。ある日、料理教室の先生の案内で研修に来たのがこの「ひまわり」だった。そのご縁で、5月から調理と宅配のボランティアをさせてもらっている。

ここでは手洗い、食器の熱湯消毒など徹底した衛生管理がなされて、素材は吟味され、味は食べてみたら目を丸くして自然にうなづく。代表の入江さんはお年寄りの言葉にもよく耳を傾け、その意向を日替わりメニューの料理に反映する。調理する人たちは底抜けに明るく、仲が良い。お客さんの満足な顔を見て喜びあい、明日の調理の活力にする。お客さんも働く者も、ほっと安らぐ店である。(明石市相生町 H・H生)

